

別紙 1

長野県社会福祉審議会子育て支援専門分科会の意見

No	委員意見	担当課(室)	県の考え方	備考
1	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中で、おおむねの事業において目標に向け着実に推移していることは評価すべき点です。	こども・家庭課	目標達成できるよう、引き続き子ども・子育て支援に取り組んでまいります。	—
2	保育士修学資金貸付事業が計画以上に進んでいる点、保育士人材バンク事業など、更なる保育士資格取得者の確保や潜在保育士の就職支援への取り組みが計画通り実施されている点は高く評価します。しかし、令和5年度の保育士・幼稚園教諭の養成課程への入学希望者は県内の保育士養成施設において減少傾向が顕著です。保育士の処遇改善とともに就学資金の貸与などの支援の情報を高校・中学の進路選択の際に周知できるように取り組みも更に進めてほしいと思います。	こども・家庭課	現在、保育士修学資金の周知は、例年10月頃に高等学校にチラシと案内冊子を送付し、進路指導の担当教諭等に生徒への周知を依頼しています。周知の対象を広げる等多くの中高生に当該制度を知ってもらえる工夫を検討してまいります。	—
3	No.81「放課後や休日等におけるひとり親家庭の子どもの安全・安心な居場所づくりを推進するため、放課後児童クラブの活動や、児童館・児童センターの整備を支援し、登録児童数の増加を図ります。」の進捗が「計画から遅れている」とありますが、重点的に推進していただきたいです。	こども・家庭課/文化財・生涯学習課	放課後児童クラブ・児童館の施設整備を行う市町村に対して経費を補助し、支援を行っております。引き続き、市町村の要望に基づく施設整備を行ってまいります。	—
4	「登録児童数は、新型コロナウイルス感染症に伴う利用控え等により、令和2年度から1,145名減少しました。」とありますが、利用控え等の他にも、利用減少の要因があるのではないかと考えます。放課後児童クラブ等の支援提供の実態が子どもや保護者の支援ニーズに即していないことも大きな要因の一つであると考えます。子ども達が安心・安全に過ごすことができる環境や、質の高い支援を提供できるような支援者の処遇改善及び研修の取り組みが重要だと考えます。登録児童数の増加が指標になっていますが、子どもや保護者など利用者の満足度の上昇なども指標の選択肢として検討していただきたいと思います。	こども・家庭課	放課後児童クラブや子ども教室の登録児童数減少があった市町村に要因を訊ねるなどすることを検討してまいります。放課後児童クラブについては、市町村が条例で施設基準等を定めて設置・運営されています。放課後児童支援員認定資格研修や現任者研修などを実施して、改めて国の定める参酌基準などを周知し、子どもたちにとって安心、安全な放課後児童クラブが運営されるよう支援してまいります。処遇改善事業などについても、適切に市町村に情報提供を行い、安定的な確保や就業継続を支援してまいります。また、評価の指標については今後検討してまいります。	—
5	2. 点検・評価の結果 ○下方推移してしまった各指標について今後の方向性 アについて放課後の居場所の実態把握について、登録児童数が例えば、週5日中3日以上登所しない子は登録児童に含まれないなど、本当の人数が把握されない可能性があると考えています。登録児童数として各市町村に正確な実態把握を求めているいただきたい。また、児童が安心して利用できる環境整備を支援することについて、実態把握時に、施設の老朽化や、静養スペースがない、トイレがないなど、子ども達が安心して利用できる施設環境が整っているかどうかなども把握して、整備の支援を検討していただきたい。	こども・家庭課/文化財・生涯学習課	放課後児童クラブや子ども教室の登録児童数減少があった市町村に要因を訊ねるなどすることを検討してまいります。放課後児童クラブについては、市町村が条例で施設基準等を定めて設置・運営されています。放課後児童支援員認定資格研修や現任者研修などを実施して、改めて国の定める参酌基準などを周知し、子どもたちにとって安心、安全な放課後児童クラブが運営されるよう支援してまいります。	—
6	(3) 地域子ども・子育て支援事業の実施状況 <今後の方向性> について放課後児童支援員認定資格研修や子育て支援員研修のオンライン実施などで、支援事業の担い手の確保を図っていただくことは感謝しております。それでも放課後児童支援員は不足している状態であるため、研修だけではなく、保育士と同様に、安定的な確保、就業継続できるよう担い手の確保を図っていただきたい。	こども・家庭課	引き続き放課後児童支援員認定資格研修を実施し、支援員の確保について支援してまいります。また、処遇改善事業などについても適切に市町村に情報提供を行い、安定的な確保や就業継続を支援してまいります。	—
7	保育士不足について潜在保育士は多くいるはずにもかかわらず、慢性的な保育士不足の背景にある諸問題については、もう少し検証していく必要があると感じております。労働賃金改善等も含めた、働き方改革、一人ひとりの保育士の保育観にあった現場の一つでも多く実現していく努力など、そもそも、保育士が何を求めているのかを一度調査体系をまとめることができたらと思うのです。いずれの問題課題も、データベースを追っていくだけでなく、根本的な課題に対してアプローチしていく必要があると思うので、その部分に対してコミットしていける機運は高めたいですね	こども・家庭課	潜在保育士の状況については、保育士人材バンク事業においてアンケート調査等を実施し、課題等を把握してまいります。また、保育現場の状況や運営実態を把握する観点から、定期的な指導監査に加え、保健福祉事務所等に保育専門相談員を配置し、定期的に保育所等を訪問しております。今後もこうした保育所等への巡回訪問などにより、保育士の皆さんのご意見等など保育現場の実態の丁寧な把握に努め、保育士確保の施策に繋げていきたいと考えています。	—
8	フリースクール等、不登校児童支援に対して一つ新たな項目として考えていただきたいのが、長野県におけるいわゆる不登校、学校に行かない選択をした子どもたちの存在の把握と、フリースクールをはじめとするいわゆる【居場所】にスポットを当て、具体的な支援や方法を考えられぬものかと思いました。長野県に子どもたちを真ん中において、子どもの権利や居心地の良さを体現していく土壌創りの旗振りを、全国に先駆けて行っていく機運を高めていく役割を自覚し、是非推し進めていただきたいと考えております。	次世代サポート課	御意見のとおり、不登校児童生徒（学校に行かない選択をした子どもたち）の把握は必要であると考えております。今後も、在籍している学校やフリースクール等（学校以外の学びの場）を通じて可能な限り把握してまいります。そうした子どもたちの声を聞きながら、今後の施策を検討してまいりたいと考えております。・県では、令和5年度に「信州型フリースクール認証制度検討会議」を立ち上げ、認証項目や今後の支援の在り方について検討を進めてまいります。	—
9	母親支援に対して子育て支援の範囲に、母親に対する支援も具体的に考えていくことはこれから十分に求められるはずだと認識しております。移住者も増えてきた中で、孤独を抱えながら子育てをされている方は思った以上に多いのではないかと危惧しております。こうした部分に対しても、注目していく流れは、作っていかれたらと思います。	こども・家庭課	育児の不安を一人で抱え込むことによる子育ての孤立化を防ぎ、社会全体で子どもの育ちを支え、妊婦や子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、伴走型の相談と経済的支援を一体的に実施するとともに、必要な支援メニューに繋げていく市町村を支援してまいります。	—
10	全体的な状況報告の通り、3号認定の増加傾向は今後さらに続くことが言われていますが、こどもの数が減少している事実があっても、必要人数はそれと比例しない部分が大変悩ましいことと思います。それらを解消するには丁寧な聴き取りが必要で、その聴き取り成果を速やかに反映させることが必要だと感じました。	こども・家庭課	御意見は保育の実施主体である市町村と共有し、教育・保育の需要の把握等の参考にさせていただきます。	—
11	施策の達成状況の点検・評価について、特に計画から遅れているものについてはコロナが原因という判断がされていますが、それ以外がすべて計画通りという事実であれば一定の評価は可能ですが、A（計画以上）、B（計画どおり）、C（計画から遅れている）という3区分をもう少し細分化してもよいかと感じました。Aに限りなく近いBとCに限りなく近いBを考えた場合、Bを細分化することがまず着手してみることがよいと思いました。	こども・家庭課	御意見を踏まえ、今後、評価区分について検討してまいります。	—
12	放課後子どもプラン（児童クラブ・子ども教室）登録児童数について、R6目標に対して、減少傾向という数はコロナによるものなのか、それとも別の要因での減少傾向なのかを経年数を考えた場合に精査が必要と感じました。	こども・家庭課/文化財・生涯学習課	今後、放課後児童クラブや子ども教室の登録児童数減少があった市町村に要因を訊ねるなどすることを検討してまいります。	—
13	総体的にコロナの影響があるように思われます。No.2は1か所だけA進捗になっており、素晴らしい実行力を感じます。子育て支援も両輪となり、コロナ後の計画達成を見守りたいと思います。	こども・家庭課	目標達成できるよう、引き続き子ども・子育て支援に取り組んでまいります。	—

別紙 1

長野県社会福祉審議会子育て支援専門分科会の意見

No	委員意見	担当課(室)	県の考え方	備考
14	計画どおり進んでいる支援が多く大変心強く思いました。コロナ禍で進まなかった支援についても、これからは徐々に進んでいくことを期待しています。地域による支援の格差がなくなるようをお願いしたいと思います。	こども・家庭課	目標達成できるよう、引き続き子ども・子育て支援に取り組んでまいります。	—
15	キャリアアップ研修等、様々な研修の中に、発達障がいについての研修を入れてほしい。	こども・家庭課	県で実施している障がい児保育に関する研修の中には、発達障がいに係る内容についても含まれておりますので、こうした研修を引き続き実施してまいります。	—
16	ひとり親家庭の自立支援の推進について、様々な生活に要する資金についての相談窓口の時間が平日の日中に限られることから、仕事をしているひとり親が連絡をすることが難しい場面が多々あるのではと推測されます。ホームページより重要事項や要点を読み取り、資金の手続きを進めることは、それなりの理解力が必要となります。生活に苦しみ、日々に追われるひとり親家庭には困難だと思われる部分を手助けできる仕組みが整っていけば、より多くの困窮家庭が救われていくのではと感じました。	こども・家庭課	令和4年6月からひとり親家庭相談専用電話を設置し、時間外電話相談を実施しています。(月・水・金17:15～20:00、土10:00～18:00)。今後もひとり親家庭の方が相談しやすい体制づくりに努めてまいります。	—
17	発達障がい児・者へ向けたライフステージにおける切れ目ない支援に対する施策の検討が、より内容の深いものとなるために支援対象者である当事者とそのご家族の満足度の調査をしていただければと思います。相談支援の支援内容が十分であったかを支援を行った事業者からの情報で推測せず、支援対象者へのアンケート調査などにより、より詳しい内容が把握できれば良いのではと思います。	次世代サポート課	御意見のとおり、発達障がいの当事者やそのご家族の満足度を把握することは、支援策の評価を行う上でも必要なことであると考えますので、今後の施策の企画立案・実施において、活用を検討してまいります。	—
18	(2)教育・保育の需要と提供体制の状況について、3号認定の需要に対する現状が特に気になります。資料の数値よりも周囲の声では、「兄弟で違う園になってしまうため、下の子の入所は諦めた」等の声を聞くことがあり、入所させたいができないというケースもあるように感じます。保育士さんの確保は大変だと思いますが、出来るだけ処遇改善がなされ、「これなら働けるかも」と実感できるようお願いしたいです。	こども・家庭課	保育士人材バンクで潜在保育士の掘り起こしや、事業所と潜在保育士とのマッチング、復職にあたっての相談支援、保育士の職業的魅力的の発信など、保育士確保対策を進めていきます。また、保育士の皆さんがやりがいを持って働き続けられるよう、更なる処遇改善について、引き続き、国に働き掛けてまいります。	—
19	保育士・幼稚園教諭のキャリアアップ研修の受講を推進されていることを嬉しく思います。ニュース等で保育士による虐待が報道されたり、コロナ禍で参観日等も減り、園との関わりが減ったりすることで、不安を感じる保護者も多いと思います。職員の皆さんにとっても、他の園の先生と意見交換をしたり、知識をアップデートできる機会かと思っておりますので、県としてバックアップしていただきたい。	こども・家庭課	保育士・幼稚園教諭の皆さんの資質向上のためにも、引き続き、研修の充実を図ってまいります。	—
20	コロナ禍での事業促進は大変困難を強いられたと思いますが、概ね計画通りに進んおられることに敬意を表します。これらすべての子ども関連施策が、もっと県民に周知され、子育て環境が改善されているのだということを知って頂けるよう、今後一層の努力が必要ではないかと思ひますし、その結果として、少子化率の悪化に歯止めや緩やかになることを願っておりますので、是非引き続き、宜しくお願い致します。	こども・家庭課	御意見は保育の実施主体である市町村と共有し、子ども関連施策の一層の周知に努めてまいります。	—